

高校生の信頼感と家族と友人からのサポート感との関連

—通信制サポート校と全日制高校の生徒を対象として—

D99-4570 山本祐美

(指導教官 朝倉隆司)

1. 目的

本研究の目的は、高校生の信頼感と家族と友人からのサポート感の関連を分析し通信制サポート校と全日制高校を比較検討することである。

2. 研究方法

東京都の通信制サポート校2校(A校、B校)と全日制課程高校1校(C校)のA校男子49名女子42名、B校男子35名女子30名、C校男子83名女子44名の男子167名女子116名計283名で、年齢は15歳から21歳を対象に無記名の質問紙調査を行いA校教員、B校学院長・教員、C校はスクールカウンセラー・教員に学校訪問又は電話にてインタビューを行った。質問紙調査項目は基本的属性、信頼感(信頼感尺度 天貝1995)、家族と友人からのサポート感であり、インタビューにより生徒の様子、学校の様子を伺った。信頼感下位尺度は傾向が強いほど得点は高くなるように加算した。

3. 結果と考察

1) 学校ごとに性別で信頼感尺度(「不信」「自分への信頼」「他人への信頼」と家族および友人からのサポート感の平均値は以下の表のようになった。不信においてB校は男女とも高い(男子25.1女子25.3)。自分への信頼と他人への信頼は、比較的女子の方が高い。他人への信頼では学校ごとの大きな差異は見られなかった。

家族サポート感、男女ともB校が低い(男子14.0女子10.6)。友人サポート感も、男女ともB校が低い(男子16.5女子16.9)。全体をみて女子生徒の方がサポート感が高く、自分への信頼と他人への信頼が高いことが示された(表1)。

(得点)

		不信	自分への信頼	他人への信頼	家族サポート感	友人サポート感
男子	A校	22.9	15.9	23.3	17.0	17.0
	B校	25.1	15.7	22.3	14.0	16.5
	C校	24.0	16.9	22.3	16.5	16.8
女子	A校	22.5	17.0	24.8	19.7	17.0
	B校	25.3	16.3	22.6	10.6	16.9
	C校	20.4	16.5	24.4	18.8	18.5

表1 信頼感尺度および家族と友人からのサポート感の平均値

2) 不信は、A校とC校で家族サポート感がA、B、C校で友人サポート感が負の影響を与えていた。

自分への信頼は、A校C校で家族サポート感がB校C校で友人サポート感が正の影響を与えていた。

他人への信頼は、C校のみ家族サポート感がA、B、C校で友人サポート感が正の影響を与えていた。高校生は家族サポート感よりも友人からのサポート感の方が不信や他人への信頼に大きな影響を及ぼすことが考えられる。

3) 現在、通信制サポート校の生徒は全日制課程のように学校に通い授業やクラブ活動を行っているが、A校生徒の7割、B校生徒の6割が、中学時に不登校の状態、A校は年間20名程度、B校は年間50名程度の転入編入者を受け入れている。通信制サポート校が全日制高校よりも不信が高いのではないかと予想したが、B校男子(25.1)女子(25.3)と高かったものの、A校の男子(22.9)女子(22.5)、C校男子(24.0)女子(20.4)とA校の不信は予想より低い値を示していた。これは、A校の友人からのサポート感(男子17.0女子17.0)家族サポート感(男子17.0女子19.7)とB校C校よりも比較的高く不信に有意な影響を与えたためであろう。それ以外にも学校の雰囲気や挙げられ、A校は職員室がなく、また、1クラス20名の少数クラスのため生徒が気軽に先生と接する機会が多く相談を持ち掛けやすい。先生との関係、友人との関係を中学時にうまく関係を結ばなかった生徒も、A校に通い様々なことを克服していくことで人を信じる気持ちが生まれ信頼関係を回復していき、不信の芽生えといわれる青年期において家族や友人、学校からのサポート感によって不信が低下し、人を信じていく気持ちなどの増加につながる事が考えられる。

4. 結論

家族や友人からのサポート感、通信制サポート校と全日制高校の生徒の信頼感(「不信」「自分への信頼」「他人への信頼」)に関与しており、特に、友人からのサポート感が不信、他人への信頼に影響を及ぼしていた。

また、通信制サポート校の生徒は全日制高校の生徒より不信が高いとは限らず、家族と友人からのサポート感や学校の雰囲気などによって不信の高低があることが明らかとなった。

5. 主な参考文献

天貝由美子. 信頼感の発達心理学—思春期から老年期に至るまで—. 新曜社, 2001